

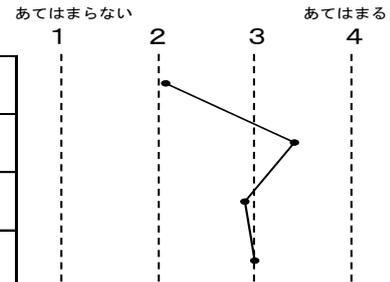


道徳に関するアンケート集計結果

2学期末にお願いした「道徳に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。実家庭数 395 に対して、ご提出いただいた件数が 358 と、9 割以上のご家庭からのご回答をいただきました。集計結果については以下のとおりです。今回のアンケート結果を参考にして、令和2年度も道徳教育に関する研究を進めていきます。

質問1

A	家庭で、お子様と道徳の授業について話題にすることがある。	2.1
B	お子様が道徳の授業でどのような考えをもつか関心がある。	3.4
C	道徳通信（現在4号まで発行）には目を通している。	2.9
D	通信票に道徳の所見が加わったことで、道徳の授業の様子が伝わっている。	3.0



質問2 学校の授業で養ってほしい内容項目（5つまで選択）

順位	内容項目	数
1	6 思いやり、感謝	273
2	1 自主・自律	190
3	19 生命の尊さ	182
4	7 礼儀	139
5	8 友情・信頼	138
6	9 相互理解、寛容	132
7	22 生きる喜び	130
8	3 向上心・個性の伸長	129
9	4 希望と勇気、克己	87
10	15 学校生活・集団生活の充実	61
11	2 節度・節制	58

順位	内容項目	数
12	11 公正・公平	46
13	21 感動・畏敬の念	37
14	13 勤労	36
15	14 家族愛・家庭生活の充実	35
16	18 国際理解・国際貢献	27
17	12 社会参画・公共の精神	25
18	5 真理の探究、創造	19
19	10 遵法精神、公德心	16
20	17 自国の伝統文化	11
20	20 自然愛護	11
22	16 郷土の伝統文化尊重、郷土愛	7

道徳の授業より

1年 「裏庭の出来事」（自主・自立、誠実、責任）

自分の行動に責任を持つことは？

裏庭でサッカーボールを使って遊んでいた健二たち三人が、窓ガラスを割ってしまう。仲間は真実を隠そうとするが、健二は先生に本当のことを伝えようとして葛藤する。

- 【内容】
- ① 真実を隠した健二は、どのようなことを考えていたか。
 - ② ひとりで職員室に向かったときの健二はどんな気持ちだったか。

【生徒の感想から】

- ・ 何かをしたら、自分のした行動に責任を持つと思った。うそについて友達のせいにはないようにしたい。
- ・ 人に流されたら、相手も自分も嫌な気持ちになるのだと分かった。
- ・ 自分がしてしまった悪事をごまかすと、もっと苦しくなってしまうと感じた。うそについてはいけないことが、改めて分かった。
- ・ 自分のやったことに責任をしっかりとって、それが良いことか悪いことか、しっかりけじめをつけたい。
- ・ 正直に言うことは、簡単そうに見えて意外と難しいことが分かった。

2年

箱根駅伝に挑む（節度、節制）

「その一瞬を楽しめ」－ 最強への徹底 －

試合を楽しむために、自分の意思で考え行動し、練習・生活に取り組む

- あたりまえのことをあたりまえに
→ 時間厳守・掃除・礼儀・規則・食事・学業の徹底
- 組織力の強化
→ 報告・連絡・相談の徹底

上の言葉は、青山学院大学陸上競技部の選手寮に掲げられている張り紙の一説である。同大学は、2015年の箱根駅伝において念願の初優勝を飾った。翌年連覇を成し遂げ、今年の箱根駅伝でも圧倒的な強さを見せたのは記憶に新しい。そんな彼らが箱根駅伝初優勝後、大切にしたのは「準備」だった。選手たちは言う。「『監督が見ているから』『先輩から言われたから』するのではだめなんです。なぜきちんとした生活が必要なのかを理解することから、競技は始まっているんです。」と・・・

- 【内容】
- ① 箱根駅伝で好成績を収めた青山学院大学陸上競技部の強さの秘密は何だろう。
 - ② 「その一瞬を楽しめ」という張り紙には、選手たちのどのような思いが込められているのだろう。

【生徒の感想から】

- ・ 練習についてだけでなく、普段の生活から心がけることを皆で共通認識として持っていることから、個人ではなく、チームとして戦っているということが伝わってきた。
- ・ 「その一瞬を楽しむためには、一分一秒を大切に、自分の生活を見直さなければならないと反省した。
- ・ 自分で目標をつくり、それに向けての日々の努力の積み重ねが大切なのだと思った。
- ・ あたりまえのことをあたりまえ以上にやってこそ「強さ」があるのだと感じた。
- ・ 全員でミーティングを行い、自分たちで「心のねじが緩んでいる」ということに気づけたことが強さだと思う。

3年

サグラダ・ファミリア～受け継がれていく思い～（感動、畏敬の念）

1882年着工のサグラダ・ファミリア。ガウディは、生涯を通して建築に取り組み続けました。「私がこの聖堂を完成できないことは、悲しむべきことではない。必ず、後を引き継ぐ者たちが現れ、より壮麗に命を吹き込んでくれる。」という言葉を残しています。この教会の彫刻を40年以上彫り続けている外尾悦郎さんは、「サグラダ・ファミリアは永遠の命をもった生き物のような大きな存在」で、「時代を超えた営みの中では、人間一人の命なんてちっぽけなもの」と強く感じるようになります。ガウディの思いは外尾さんたちに引き継がれ、外尾さんの思いも次の世代に引き継がれます。教会の建設は時代を超え、世代を超えてこの瞬間も進められています。

- 【内容】
- ① ガウディはどのようにして「必ず、後を引き継ぐ者たちが現れ、より壮麗に命を吹き込んでくれる。」と考えることができたのでしょうか。
 - ② 外尾さんが感じる「永遠の命」とは、どのようなものだろう。

【生徒の感想から】

- ・ ガウディは、独創的で壮大な教会の素晴らしさを分かってくれる人が必ずいると確信していた。
- ・ 永遠の命とは、長い年月と多くの人的一生をかけて完成される存在。人の心にずっと残り続けるもの。ガウディの思いが込められているもの。いろいろな時代の人々が命を吹き込んでいる存在。時代を超えて心で連なっていくもの。人々が大切に守っていききたいと思うもの。
- ・ ガウディの意志を継ぐ人たちはすごいと思った。私もぜひ見てみたい。
- ・ 過去から現在まで後継者がいて、世界中の人に愛されていることが素晴らしい。